

コミュニティ・スクール
学校だより

あ い お

山口市立秋穂小学校 令和5年 9月 1日



【秋穂小 学校教育目標】 《子どもが輝く 美しい学校》

エンジョイ・スタディ

校長 川 本 卓

新学期が始まりました。すでにアクセル全開の子どももいれば、徐々に加速していく子どももいるでしょう。少しでも早く学校生活に順応できるように、学校と家庭・地域が連携しながら支援をしていければと思います。

さて、今月9月号は、先日の高校野球甲子園大会で優勝した慶応高校を例に、自分の経験を含めて、少し語らせていただければと思います。野球と言えば、私の息子も小学校3年から同じ学校のメンバーで構成されるチームに入っていました。その初めて入ったチームの名前が「フレンズ」というチーム名でした。一般的にはその地域の名前や、学校名、プロ野球チームの名前を少し入れたもの（〇〇カープ）

などが多く、対外試合に行っても、「どこの学校ですか？」
「何市のチームですか？」と聞かれることも度々ありました。保護者の間でも、チーム名を「もっとカッコいい目立つものに変えたらどうか」という話が出ていた中で、この「フレンズ」というチーム名の意味を知る機会がありました。

長年そのチームを率いておられた監督は70歳を過ぎたとても穏やかな方で「少年野球は仲間と楽しく、笑顔で行うもの。だから練習も試合も楽しくやろう。」と言われていて、だからチームの名前も敢えて「フレンズ」にしたと言うことでした。大事な試合で、入部したばかりの1年生を出場させたり、「今日はサインを出さないから、自分たちで考えてやってごらん。」などと言われていたり、なかなか斬新な指導法でした。大会で優勝した記憶はありませんが、私は、このチームの雰囲気がとても好きでした。息子がその後、誰に言われるでもなく自然と高校まで野球を続けたのも「フレンズ」との出会いが大きかったのではないかと思います。



前置きが長くなりましたが、ご存じのように慶応高校は、高校野球で割と珍しい自由な髪型でした。ピンチでも悲壮感なく、みんな笑顔で楽しんでいるようにさえ見えました。ある新聞で読んだ記事では、有名になった言葉の「エンジョイ・ベースボール」と言われる根本には、あいさつや返事をきちんとすること、やるべきことは自分でやり自主性をもつこと、時間厳守をすること、相手を敬うことなどの基本的なことができているという背景がある。とのことでした。これにはとても納得しました。高校野球の印象を変えたということで、賛否がそれぞれあったように思いましたが、1人の「人」として大事なことはできている上での「エンジョイ・ベースボール」だったのだと思いました。

さて、2学期がスタートしましたが、上述のように、子どもたちには個性や持ち味を活かして、楽しく、自主的に学んで欲しいものです。そうなるためには、これだけはできて欲しい、やって欲しいというものがあります。これを、学校と家庭・地域で一緒に育み、そして、個々の頑張りを優しいまなざしで一緒に見守るということが理想だと思っています。

ちなみに、慶応高校の野球部には「部訓」というものがあって、様々な心得が決められています。その中には、コーチ（指導者）の心得というものもあり、印象に残ったものに「選手の3倍熱意を持とう」というものがありました。我々教員も「児童の3倍熱意をもって」2学期も子どもたちと頑張っていきます。どうぞよろしくお願いたします。